



《将来に向けた取組方針》

水中ドローンによる海洋ゴミ調査 海洋環境保全を目的とした海洋調査は、SDGsの観点からも非常に重要な要素を占めている。特に、海に捨てられたプラスチックごみは、分解されずに水深6,000メートルを超える深海に生息するエビの体内で発見される報告(Thompson, Richard C., et al., "Lost at sea: where is all the plastic?." Science 2004)がある。海ゴミの分布(マッピング)や海洋生態系の把握のために、水中ロボットを活用した海洋調査が必須となっており、子会社・コスモス商事は水中ドローンによるモニタリングを推進している。

海ゴミ調査 (東京湾)

Boxfish ROVを用いた東京湾の海底の海ゴミ調査の様子。



Boxfish ROV (水中ドローン)
(Boxfish Research製)

・海底の海ゴミマッピング

〈今後の課題〉

海のマイクロプラスチックは潮の流れにも密接に関連し、海底に広範囲に分布し堆積している。そのため、水中ドローンにセンサーを取り付けて効率的に調査をする必要がある。

〈社会へのメッセージ〉

我が国の豊かな海洋生態系を次世代に引き継ぐため、海洋機器を通じ、海の状態の把握に貢献していく。